

日本機械学会
2019年度
年次大会

次は秋田だ!

なんぞあべ!

大会テーマ

「サステイナビリティ」「AI社会の機械工学」
「少子高齢化・人手不足を支えるテクノロジー」

開催日 2019年9月8日(日)～11日(水)
開催場所 秋田大学手形キャンパス

1,119件の講演申込み、ありがとうございました!

2019年度年次大会では、部門融合のオーガナイズドセッションを拡充させるために部門単独での一般セッションを設定しなかったことから、セッション数が78件と従来に比べて大幅に減っています(2017年度116件、2018年度110件)。それにとまなう講演件数の減少が懸念されましたが、1,119件と例年並みの件数となりました(2017年度1,072件、2018年度1,180件)。

お申込みいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

2019年度年次大会の新たな試みとして、学生の発表は原則としてポスターセッション(3分の口頭発表を含む)に集めて充実した討論をしていただくことにしています。現在、実行委員会においてオーラルセッションとポスターセッションとをセットにしてプログラムを編成中で、6月初旬に公開予定です。

6月から事前参加登録を開始します。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

秋田さ、来てけれな。

2019年度年次大会実行委員会 委員長 奥山 栄樹

機械学会さ!

—秋田に集うしったげおもしろえ技術—

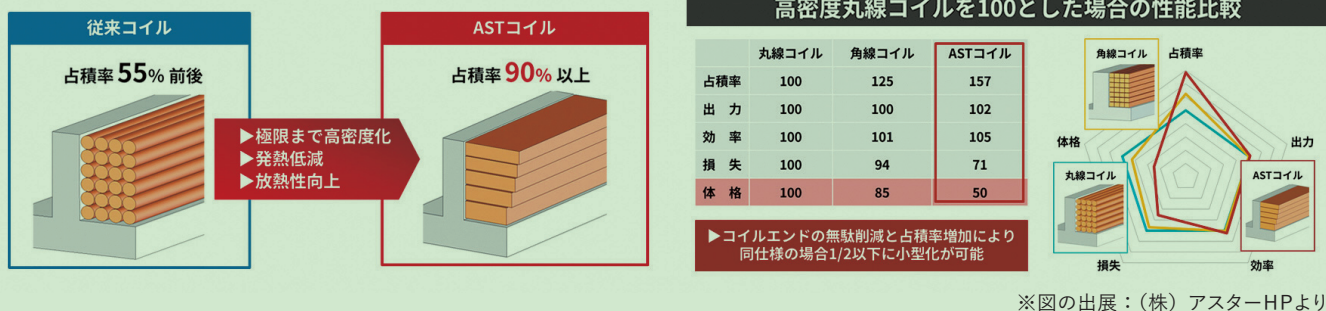
小形軽量電動化システム技術の研究開発などの「次世代」を見据えた取り組み

少子高齢化や大都市圏への人口の流出など、日本一厳しいともいえる社会課題を抱える秋田県。その対応の一つとして、若者に夢を与え惹きつける将来産業の創出を進めています。

県内企業のアスターが開発したモーターコイルに関する革新的な技術を起点とした、電動パワーユニット分野の産業集積を目指して、県内の大学や公設試験研究機関、県内外の民間企業などと一緒に、秋田県では次のような取り組みが進められています。

新世代パワーユニット中核拠点の創生

アスターが開発したモーターコイルを起点とし、県内に電動パワーユニット分野の中核拠点を創生するため、量産工場の立ち上げについて投資の助成や生産技術の支援を行っています。



航空機システム電動化研究拠点の創生

航空機システム電動化の研究拠点を創生するため、県内の大学(秋田大学、秋田県立大学)の研究者21名によるアキタ・リサーチ・イニシアチブ(ARI)を組織し、「航空機燃料ポンプの電動化」や「モーターの評価に向けた性能評価試験」などについて、県内企業および県外川下企業とともに共同研究を進めており、県としても県内大学の研究設備設置や研究活動への支援を行っています。

また、県内企業による「秋田試作事業組合」を設立して、この研究の進展と併せてモーターの試作を受注するとともに、将来的には地域の企業による量産体制の構築を目指しています。

新世代航空機部品製造拠点の創生 (複合材成型技術の開発)

産学官の連携により秋田複合材新成型法(ANC)技術研究組合を設立し、複合材の新しい製造技術・検査技術の研究開発を進めています。次世代の航空機、自動車、建築・土木分野での応用を目指して、重工メーカー、自動車メーカー、建設会社などと共同研究に取組み、その製造拠点の創出を目指しています。

電動パワーユニット分野への参入拡大と航空機システム電動化研究拠点の創生は、「小形軽量電動化システム技術の研究開発」として有機的に結びついており、秋田大学ではこの分野の人材育成を強化する改革を進め、地域の競争力を高めて電動化システムにかかる地域産業への波及効果を広げていくこととしています。

お問合せ先：秋田県産業労働部 地域産業振興課輸送機産業振興室

TEL: 018-860-2242 FAX: 018-860-3887
E-mail: akita-yusouki@mail2.pref.akita.jp